

令和 4 年度 三 好 市 立 学 校 評 価 報 告 書

学校名(山城中学校)

校長名(大 畑 知)

作成日 令和5年3月23日

1 総括評価

評価分野	自己評価 (平均値)	自己評価結果の概要	学校関係者評価の概要	次年度の改善策
① 学校経営及び学校運営に関する評価	3.0	感染症対策を徹底した上での教育活動実施については、保護者も概ね理解を示してくれている。職員や保護者が意見を出し合い、工夫をして、みんなで関わられた。	感染症対策を十分に行い、教育活動に取り組んでいた。地域の子どもたちに対して魅力ある学校にしていってほしい。	それぞれの経験に応じた役割を意識し、学校運営を行う。コロナ禍での開かれた学校づくりを考える。
② 教育目標及び教育計画に関する評価	3.2	感染症対策を十分にとり、個々の行事や活動を精選することによって、目標とする教育効果を得ることができた。	生徒数減少に対応して、複数学年で一つの活動を行うなど、工夫ができています。	子どもが活躍できる場の設定、方法の教授、評価のサイクルを実践し成長を促す。
③ 主要な教育活動に関する評価	3.0	全体の中で、自分の意見をしっかりとと言える生徒が増えている。自尊感情を育てる取組を続けていかなければならない。	わかりやすい授業の展開に対してよく工夫がされている。ICT機器も十分に使いこなし、生徒が生き生きと学習できている。	コミュニケーション能力の更なる向上を目指し、対話によって考えを深めることができる生徒の育成を目指す。
④ 保護者や地域との連携等に関する評価	2.8	保護者や地域の体制は協力的であったが、感染予防のため、校外での活動が十分になかった。	学校の様子を分かりやすく知らせることが、保護者や地域との連携のしやすさにつながる。	コミュニティスクールとしての活動を進める。地域の持つ教育力を活用する。
⑤ その他、上記以外に関する評価()	2.7	報告・連絡・相談体制が十分確立されておらず、他者のしようとしていることが理解できずに、協力できない場面があった。	1年間の見通しを持った計画が必要である。	しっかりとした計画を立て、行き当たりばったりの行事とならないようにする。余裕をもって仕事に当たる。

(1) 4段階評価とする。

評価基準 4=達成度が 90～100 %
3=達成度が 70～ 90 %
2=達成度が 50～ 70 %
1=達成度が 50% 未満

(2) 総括評価表の「評価(平均値)」については、「2 分野別評価」の(1)～(5)の評価をそれぞれ平均(小数第1位)したものとす。

(3) 分野別評価の「評価項目」の「その他」については、各学校において必要事項を記入のうえ評価する。

(4) 総括評価の「評価分野-その他」の項目の()には、分野別評価の「(5) その他に関する評価」の中から、特に重要視する事がらを記入する。

(5) 総括評価及び分野別評価の「学校関係者評価の概要」欄は、学校関係者評価委員会(学校運営協議会も可)において評価された結果をまとめたものを記入する。

(6) 「次年度の改善策」の欄は学校評価委員会及び学校関係者評価委員会において協議された改善策をまとめたものを記入する。

[様式2-1]

2 分野別評価

(1) 学校経営及び学校運営に関する評価

評価項目	自己評価	自己評価結果の概要	学校関係者評価の概要	次年度の改善策
① 業務改善・働き方改革への取組状況	3	部活動の指導が働き方改革が進まない大きな要因となっている。	・部活動の土日の地域移行化が始まるので、うまく利用できないだろうか。 ・特色ある教育が行われているという評価が85%で、昨年より5ポイント上がっている。 ・変化の激しい現代において、教職員が対応できるような研修が必要である。	複数顧問制を徹底し、職員の負担を減らしていく。
② 経営方針の明確化とその実践状況	3	地域とともに活動できる教育体制を再構築していく必要がある。		学校運営協議会の活用し、地域の特色を活かした活動を進める。
③ 校務分掌分担の適正化と組織的な活動・運営状況	2	職員構成のバランスを考えた結果、若干の偏りがあったように思われる。		校務分掌の平準化を図り、時間外勤務を少なくするように努める。
④ 教職員研修体制の確立と実践状況	3	時間を有効に使った短い研修をこまめに行うことができた。		ICT機器の活用を更に推進する研修を取り入れる。
⑤ 教職員の資質向上に向けた取組状況	3	メンター制やOJTを活用し、若手教員のスキルアップをおこなった。		経験に応じて、それぞれのよさを出し合える場を設ける。
⑥ コンプライアンス推進への取組状況	3	教頭を中心に、事例研修を行った。		報告・連絡・相談体制の徹底を図る。
⑦ その他 ()				

(2) 教育目標及び教育計画に関する評価

評価項目	自己評価	自己評価結果の概要	学校関係者評価の概要	次年度の改善策
① 学校教育目標の具現化と実践状況	3	常に意識し目標に照らし合わせる必要がある。思い切った改革も必要では無いかと考える。	コロナ禍で工夫を凝らした活動ができている。今後も、生徒のため、できることを精一杯行ってほしい。	各活動の目標を具体的に示す。
② ナンバーワン・スクール、ステップアップ・スクールの具現化と実践状況	4	職員も意識して取り組んでくれたおかげで、概ね達成できているように思われる。	小規模校のよさが生かしている。	一人一人が輝ける場の設定を心がける。
③ 創意ある教育課程の編成と実施状況	4	制限の多い中、創意工夫して教育実践を行った。	特色のある教育活動(コミュニケーション活動等)ができている。	郷土に誇りをもてる子どもの育成に努める。
④ 学校行事の精選・充実と成果の状況	3	当初の計画に無い行事もあり、年間を通して行事に振り回された感がある。	コロナ禍の影響もあり、学校の活動に参加しやすいと答えた保護者が70%と昨年度より7ポイント減っている。	タイムパフォーマンスを考え、教育効果の低い行事は思い切って取りやめる必要がある。
⑤ その他 ()				

[様式2-2]

2 分野別評価 その2

(3) 主要な教育活動に関する評価

評価項目	自己評価	自己評価結果の概要	学校関係者評価の概要	次年度の改善策
① わかる授業の実践とその成果の状況	3	授業がわかりやすいと答える生徒が94%と高い。	タブレットを活用しわかりやすい授業ができている。	タブレットを活用した授業実践に努める。
② 生徒指導の取組とその成果の状況	3	学校が楽しいと答えた生徒が90%と高い。	すぐには結果が出ないが、根気強く不登校対策に努める。	個に応じた対応と、外部諸機関の活用を進める。
③ 道徳教育及び人権教育の取組とその成果の状況	3	思いやりや協力に関する項目について高く評価する生徒が85%を超えている。	発表が意欲的にできている。	生徒の考えを深める授業展開の工夫を行う。
④ 健康・安全教育の取組とその成果の状況	3	地域とともに安全教育(防災教育)に取り組むことができた。	感染防止対策に対する保護者の好評価が90%~100%である。	本校の立地条件にあった防災教育を充実させる。
⑤ 学力向上への取組とその成果の状況	2	国語力の向上が、学力向上の鍵を握っているように思われる。	学力がついていると評価した保護者が65%と少ない。	基礎学力の定着に努める。
⑥ その他 ()				

(4) 保護者及び地域との連携等に関する評価

評価項目	自己評価	自己評価結果の概要	学校関係者評価の概要	次年度の改善策
① 保護者・地域社会への情報発信及び意見収集状況	3	情報発信の方法をシステム化する必要があると感じている。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の様子がよくわかると答えた保護者が、85%と前年度より9ポイント下がっている。 ・地域には様々な活動を行っている人たちがいる。積極的に活用してほしい。 	ホームページの充実を図る。
② 地域行事やボランティア活動への参加状況	2	タイムパフォーマンスを考えながら、効果的な取り組みが必要である。		今年度も校外活動がやりにくかったが、少しずつできることを増やしていく。
③ PTA活動の活性化に向けた取組状況	2	コロナ禍も一段落しつつあるので、徐々にPTA活動を増やしていかなければならない。		コミュニティスクールを推進する。
④ 他校や異校種間との交流連携強化への取組状況	2	今年度は交流ができなかった。		時期を考えながら、他校との交流を実施していく。
⑤ 地域の人材や外部講師の活用状況	2	今年度は地域へ出向いての活動を2つ行うことができた。		学校運営協議会の活用を推進する。
⑥ その他 ()	2	コロナ禍によりPTA活動が衰退しているように思われる。		PTA活動の充実を図る。

※ 量的なことだけにこだわらず、コロナ禍で、どのような工夫ができたかを加味して評価してください。

[様式2-3]

2 分野別評価 その3

(5) その他に関する評価

評価項目	自己評価	自己評価結果の概要	学校関係者評価の概要	次年度の改善策
① 教育環境の安全管理及び整備状況	3	毎月の安全確認を徹底し、危険箇所のチェックを行った。	活動中にけががないよう十分に注意を払ってほしい。	日々の安全点検を行う。
② タブレット等, ICT機器の活用状況	3	研修の充実に努め, スキルアップができた。	どの授業でも積極的に活用できている。	タブレットの活用を更に進める。
③ 特別支援教育の取組状況	3	きめ細かい指導を心がけ, 個々のニーズに対応した。	丁寧な取組を続けてほしい。	連絡帳を活用し, 密な情報交換に努める。
④ 指定研究等の取組状況 (該当校のみ)				
⑤ 工夫した部活動の実施状況 (中学校のみ)	2	部活動に対する積極的な取組は97%の生徒ができていますが, 運動の習慣はそれほど定着していない。	人数が減少した中で活動の維持が難しい。何か方策が必要。	目標をもった部活動が実践できるようにする。
⑥ その他 ()				